

会 議 の 経 過

議 長（下田敏美君）

おはようございます。

着席ください。

本日の欠席議員を報告いたします。1番、松村英子君、4番、種市正孝君から欠席する旨の通告がありましたので、報告いたします。

ただいまの出席議員数は10名であります。

定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

開議（午前10時00分）

議 長（下田敏美君）

本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

日程第1 諸報告を行います。

地方自治法第121条第1項に基づき出席要求した者及び委任による出席者の氏名については、お手元に配付してあります出席者名簿のとおりであります。

次に、日程第2 一般質問に入ります。

一般質問の通告者は5名であります。次の通告の順により一般質問を許します。

なお、質問者及び答弁者は、質疑、答弁を簡潔、明瞭にお願いします。

最初に、1番、松村英子君から一般質問の通告がありましたが、本日、欠席届が提出されたため、会議規則第60条第5項の規定に基づき、松村英子君の一般質問は行いません。

次に、6番、杉山茂夫君は一問一答方式による一般質問です。

杉山茂夫君の発言を許します。

6番、杉山茂夫君。

6 番（杉山茂夫君）

おはようございます。

質問に入る前に、お隣の岩手県大船渡市、山火事で亡くなられた方、あるいは家屋の焼失など、そしてまた、避難されている皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げたいと思います。私どものこの舘野公園も、土日、キャンパーが来ております。キャンパーは、たき火をしな

がらくつろぐわけですが、そのたき火が原因でということも十分考えられると思います。公園を管理する立場として、これから注意喚起を促していかなければいけないなとつくづく感じる次第でございます。

それでは、質問に入ります。

令和5年3月以来、私は2年ぶりの一般質問になります。いよいよ、4月から六戸町立義務教育学校六戸学園が開校となり、同時に町内小中5校が閉校し、その管理と利活用が喫緊の課題となります。文科省のホームページを見ますと、少子化により、毎年約450校程度の廃校施設が発生しており、その8割が様々な用途に活用されていて、「みんなの廃校」プロジェクトの活用事例集が掲載されております。

そこで、六戸町の閉校となる5校について、校舎等の減価償却の問題も絡め、解体予定と解体後の土地利用の見通しを改めて伺います。また、残す予定の学校施設について、その利活用の方策を伺います。

具体的には、1番として、町内小中5校の校舎の解体予定と、解体後の土地利用の見通しについて伺います。

2番目に、町内小中5校の学校施設の利活用について伺います。

次に、現在の図書館の閉館に伴い、今後の利活用について伺います。

令和4年12月に、最後の六戸高校生による模擬議会があり、私が担当した生徒は町に若者や子育て中の女性が集うカフェを提案して、若者の居場所づくりや、子育て支援について取り上げました。六戸町も、ろくのへ未来2030で地域における子育て支援の充実を掲げ、町人口ビジョン総合戦略では、若い世代に選ばれる子育て応援のまちづくりと、未来を担う人材の育成をうたっております。確かに、各こども園に子育て支援センターが3か所委託設置されていますが、声高らかに子育て支援の政策を訴えるのであれば、町の中心部にこそ子育て支援の核となる施設が必要ではないでしょうか。

その観点から、3つの質問を行います。

まず一つは、絵本や簡易遊具のある子育て支援センターを設置し、子育て世帯の交流と居場所づくりをする考えはありますか。

次に、自販機カフェと談話スペースのある町民サロンを設置し、町民同士の交流と、生徒たちの自主スペースなどをつくるお考えはありますか。

最後に、若者が求めている居場所づくりや出会いの場として、家庭や職場以外のサード・プレイスを設置する考えはありますか。

以上、「恵みの大地と人が結び合う やすらぎと感動の定住拠点・六戸」を目指して、廃校となる小中5校の有効活用と、若者、子育て支援のお母さんたちの居場所づくり、そういった子供支援について、壇上からの一般質問といたします。

議 長（下田敏美君）

町長。

町 長（佐藤陽大君）

おはようございます。

ただいま、杉山議員から質問の出ました、町内小中5校の廃校後の利活用についてのご質問にお答えいたします。

1つ目の、町内小中5校の校舎の解体予定と、解体後の土地利用の見通しについて問うについてですが、六戸学園開校後の小中学校5校については、今後学校施設としては使用できないことから、老朽化のため解体する校舎と、利活用について検討していく校舎に分けていくこととなります。

令和4年4月に策定した、六戸町立小・中学校最適化基本計画によると、六戸小学校と六戸中学校は老朽化が著しく、将来的には校舎を解体する方向で考えております。ただし、解体に係る費用の財源確保の問題や、国の補助金や地方債の借入れを活用し整備してきた校舎であることから、解体する際に制約がないかなどの事前調査を行った上で進めていく必要があり、具体的な時期についてはこれから検討していくこととなります。

また、解体後の土地利用についても、未利用財産を抱えても維持管理経費が継続することから、庁舎内で組織しております公有財産取得処分等検討委員会で有効活用する方法について検討してまいりたいと考えております。

2つ目の、町内小中5校の学校施設の利活用について問うについて、お答えをいたします。

解体後の土地利用と同様に、公有財産取得処分等検討委員会の中で、有効活用していく方法を検討していくこととなりますが、4月の六戸学園開校後であっても、ある程度の期間は小中学校5校にこれまで使用していた備品なども多少残ることになり、別の用途で利活用の検討にまだ時間を要すると考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

次の、現図書館の利活用についてのご質問にお答えいたします。

現図書館施設の活用については、様々な事業への利用や行政組織体制の見直しによる庁舎

機能への利用など、有効に活用できるよう今後において検討していくこととしております。

ご質問の、子育て支援センター、町民サロン、サード・プレイスなどへの活用につきましては、まずはニーズの把握に努め、必要が生じるならば検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

以上です。

議 長（下田敏美君）

杉山議員。

6 番（杉山茂夫君）

先ほどの、小中学校の解体及び利活用については、前に私が実は、一般質問したことがございます。そのときの部分と大差ないなと思っておりました。実は、この何年間、きっと六戸学園建設に向けて担当課も一生懸命やっていた中で、そういう次の利活用のステップという部分ではなかなか進んでいなかったのかもしれませんが、また、先ほど言いました、今は教育課、教育委員会が学校の管轄になっています。いよいよ学園が開校します4月1日からは、これは町のいわゆる財産になるわけですね。そうすると、各学校の町の財産の管理は、今度は企画財政課に移るのですか。その辺をまず確認しながら。

議 長（下田敏美君）

企画財政課長。

企画財政課長（吉田英輔君）

旧小中学校の管理については、まだ学校で使用した備品とかも多少残る形になりますので、来年度の予算としては教育委員会の中に盛り込んでおります。管理費用とかですね。

以上です。

議 長（下田敏美君）

杉山議員。

6 番（杉山茂夫君）

としますと、まだ1年間は校舎の管理は教育委員会ということで、解釈してよろしいんですか。

議長（下田敏美君）

企画財政課長。

企画財政課長（吉田英輔君）

この後、1年間になるのか、いろいろ今まで閉校になった柳町小学校とかも、引き続き教育委員会で管理してきた部分もございますので、その辺と照らし合わせて、どういう管理の方法が一番いいのかというのを考えながら検討していきたいと考えております。

議長（下田敏美君）

杉山議員。

6 番（杉山茂夫君）

実はここに、文部科学省のこれホームページから印刷したのですが、廃校活用事例集、これは「みんなの廃校」プロジェクトというのがあります。

この最初の、いわゆる文科省の廃校プロジェクトの目的の中に、はっきり言いますと、全国で毎年450校出ているこの廃校施設をどうやって利活用したり、あるいは壊したり、あるいはそういう形をするかということの部分で、利活用のためには文科省のほう、あるいは県にもありますけれども、こういう例えば学校の規模で、写真もつけて面積もつけて規模もつけて、そしてなおかつ有償か無償か、貸すか譲渡するか、あるいはこういう目的に使ってほしい、公共の目的であれば文科省は例えば、許可していくとか、あるいはさっき言いました、まだ減価償却というんですか、いわゆる補助を受けた部分で残さなきゃいけなかった分の整理の仕方の中で、こういったことも含めて文科省が判断して、そしてこれはいいとかという形になると思います。

その中で、ホームページの中に、いわゆる全国の廃校した校舎の規模とかいうことがずっと出ているんですね、掲載されて。そうしますとそれを全国の企業とか団体とか、地域の皆さんがホームページから、この校舎は使える、これはちょっと無理かなとか、いろんな形で、そういう形で公表されているんです。県もそうです。

こういうことは、どこが、これから、教育委員会が、文科省にこういうホームページに掲載を上げるのか、企画財政課がこれから考えて上げるのか、そういう形のめどはいつなのか、そういう、年々建物もどんどん、住まないと、あるいは使わないと傷んでいきます。そういったことも含めて、その辺のめどについてはどういうふうにお考えかを伺いたいと思います。

議長（下田敏美君）

企画財政課長。

企画財政課長（吉田英輔君）

お答えいたします。

有効活用の方法について、世間に一般的に広めるということに関しては、企画財政課が担当になります。その活用方法を検討する、公有財産等の検討委員会のほうも、企画財政課が担当で進めることになります。まずは、先ほど杉山議員からも出ていましたけれども、まずは六戸学園の開校と、残った学校施設をどうするかという検討を、同時進行はちょっと難しかったものですから、まずは義務教育学校の開校が優先、その後、状況を見て検討していく形になります。

杉山議員おっしゃるとおり、どんどん老朽化が進んでいきまして、どんどん古くなるということもございますので、その活用方法についてはできるだけ早く方向性を出していきたいと考えております。

以上です。

議長（下田敏美君）

杉山議員。

6 番（杉山茂夫君）

実はどうして、どこが管理して、どういう形で進んでいくかという、この廃校後のプロジェクトについて、実はこの文科省の部分では、廃校が決まった時点から計画しなさいということであつたわけになっています。廃校と同時に、あるいは廃校後間もなく校舎が老朽、いわゆる傷まないうちにいろんな形で企業でもどこでも、そこで利活用できる、あるいは地域でも利活用できる、こういった部分で、方策を廃校が決まったときから立てなさいというふうに、実

はなっているわけです。

前にも一般質問したときに、実際は例えば、小中学校の最適化計画から、次に廃校になった校舎については、町の公有財産取得処分検討委員会、ここで検討するという事でこの何年か、きっと皆さんが検討されてきたんじゃないかと思うんですね。これは教育委員会だけの話じゃないです。皆さん、全課のきっと課長たちとか皆さん集まって。この部分で、きっと廃校が決まった時点から検討されてきたのかなという部分で、どこか推測していました。

そうしましたら、何年か前に私が一般質問したときと、今の町長のご回答があまり変わっていない。実際検討されてきたのか、検討委員会で重ねてきたのか、それを再度伺いたいと思います。

議 長（下田敏美君）

企画財政課長。

企画財政課長（吉田英輔君）

何度か検討会のほうは開催させていただきましたが、実際のところ、具体的にどうしているかというのは検討されてございません。

以上です。

議 長（下田敏美君）

杉山議員。

6 番（杉山茂夫君）

ということは、具体的な、いわゆる例えば、先ほど六戸小学校と六戸中学校は老朽化しているんで、いずれはその時期はちょっと未定けれども壊すと。あとの3校については、利活用を進めていくという部分の利活用の仕方も、これもまだ何の具体的な検討に入っていないということですね。その辺は例えば、今年中とか来年度に向けてとか、何かその辺の方針はあるんでしょうか。

議 長（下田敏美君）

企画財政課長。

企画財政課長（吉田英輔君）

方向性については、先ほどできるだけ早くということを申し上げましたので、来年度中にはその方向性について、方向性を出せればと考えております。

議長（下田敏美君）

杉山議員。

6 番（杉山茂夫君）

実は、今回私がこの廃校後の問題について、一般質問をいたしまして、同僚の種市議員もこの後する予定でいましたけれども、その辺の予算とか経費の部分は種市議員に任せようと思いがらいましたので、私はざっくりと、大体その文科省の資料を見ると、廃校後1校当たり1年間で200万円くらいの経費がかかると。5校ですから1,000万円かかるわけですね、1,000万円。

これを管理維持するだけで1,000万円かかるとしたら、できるだけ早く、例えばもし民間の企業なり団体なりどちらか何かの形で活用するというのであれば、早くそういう形の部分で方針を立てて、そしてやったほうが経費がかかなくていいと思うんですが、その辺の進め方のスピード感について、町長からもし一つの利活用の進め方、その辺を基本的な部分で伺いたいと思います。

議長（下田敏美君）

町長。

町長（佐藤陽大君）

ただいまご質問ありました、利活用の方法についてですけれども、4月に六戸学園が開校いたします。体育館等は、各部活動で使える可能性もあるかなということで私は考えておりますけれども、検討委員会のほうでも関連がありますので、はっきりとしたことは申し上げられないですけれども、六戸学園の児童生徒たちが活用する部分としては、十分可能性はあり得ることだと思いますので、その辺は慎重に判断しながら考えていきたいと思います。

あと、補助金等の関係がありまして、簡単にはほかの方々に貸せる、貸せないという問題

がいろいろあるようですので、そこも校舎の部分含めて、体育館もそうですけれども、そこは検討委員会で検討していかなければならないと私は思っております。

以上です。

議 長（下田敏美君）

杉山議員。

6 番（杉山茂夫君）

そうしますと、一つがこれから検討して、スピード感を持ってやっていくとして、まず大事なのが現状の把握だと思うんです。その建物だけじゃなく、今、町長おっしゃったみたい
に例えば体育館は使える、あるいはこっちのほうはもうそのままにする、こういう部分で、
例えば実際に、企業なり団体なり、例えばそういう問合せか何かが来ているのかどうか、そ
れが一つ。

それからもう一つが、これからこの5校について、こういう形でこれからは使います、あ
るいは2校については取り壊す予定ですと、そういう部分の、具体的な部分の方針を町のホ
ームページなり、例えば前に、アパートなんかの空き室の情報をホームページで流したら、
すぐ見つかったりしますよね。それと同じように、そういう、こういう部分のこの3校につ
いては、こういう形の利活用でできますと。そしたら、そのホームページを見た企業、団体、
あるいは個人がこういう形で使いたいという形で申し込むかも分からない。

あるいは、県のほうに、この廃校舎の部分の情報を流せば、県のほうで今、実際にありま
すよね、具体的に載っています。それから文科省のほうのホームページを見ると、例えば岩
手県辺りは、一つの町で4校ぐらいもう廃校にしました。これは有償だとか、このぐらいの
規模だとか、こういうので使ってほしいとかという、全部情報載っている。こういったよう
に、まずホームページに載せる、そういう形の部分から取り組んでいかなければいけないん
じゃないかということで、私考えますけれども、いかがでしょう。

議 長（下田敏美君）

町長。

町 長（佐藤陽大君）

ただいまのご質問にお答えいたします。

利活用の話が今、出ておりますけれども、六戸学園のお話をさせていただきますと、様々な部活動が現状あります。開校してから多分、雨の日はどこを使おうとかということで、様々なシミュレーションしていかなければ、例えば先に、利活用を優先してほかの企業であったり、一般の方々に提供してしまつては、子供たちが使える場所が今度なくなってしまうということも可能性ありますので、まずは六戸学園が開校して、子供たちがどういう使い方ができるのか、その辺も含めてまずはスタートを切った状態で、どの部活動がどの体育館を使うとか、どのグラウンドを使うというのをある程度シミュレーションできた状態で、使わないところはじゃ、利活用に進めましょうという形の考え方が、私はベストではないかなというように思っております。

以上です。

議長 長（下田敏美君）

杉山議員。

6 番（杉山茂夫君）

まず、今、きっと六戸学園開校して、そしてしっかりと体制が整うことを見込みながらいろいろこれから検討していくということで、ある程度は分かりましたが、一つ、例えばさっき言ったホームページについても、あるいは文科省のこういった部分の掲載についても、一つの具体的に、この校舎をこういう形で使いたいとかというのは、この検討委員会の中で煮詰めて、具体化した部分を写真も一緒に入れながら、県とか国とか町のホームページに掲載して、そして利活用を図っていただきたいということを、ひとつ要望しておきたいと思います。

それから、もう一つなんですが、各学校で今、備品がいろいろ出ます。例えば、机、椅子もそうですけれども、例えばピアノなんていうのは、きっと5校あれば5台あると思うんですね。今、文化ホールにステージ用のグランドピアノと、アップライトピアノがホールにあつたりします。みんながよく使つて、最近よくストリートピアノとかいろんな形の使い方あります。例えば道の駅に、じゃ、そういうのを使おう、置こうとか、いろんな形で例えば備品の使い方であると思うんですけれども、備品についてはどういう部分が5校から出てくるのか、その部分は新しい学園で使わない場合はどういうふうにしていくのかというの

を、ちょっと基本的な部分で、これ教育委員会のほうですか、どちらですか。分かる範囲で
もし方針がありましたら教えてください。

議 長（下田敏美君）

教育課長。

教育課長（長谷 智君）

備品につきましては、おっしゃるとおりピアノとか、子供たちの机、椅子、もちろんたくさん
ございます。ただ、使えるものかどうかについては、実際見てみないと分かりませんけ
れども、そのほかには例えば各教室にテレビとかもございますので、それは全部今六戸学園
で使うか使わないかという、多分使いません。ということで、旧校舎のほうに残る状態
ではあるんですけれども、報道等に出ているとおり防犯対策のほうはきちっとしていかないと
いけないというふうには考えております。

以上です。

議 長（下田敏美君）

杉山議員。

6 番（杉山茂夫君）

テレビも含めて、そういう備品の部分で、よく町の公用車が公有財産の処分ということで
よくホームページにも出たりなんかしてやっていますけれども、そういう部分ではこれから
もし使えるものであれば、いろいろな形で、皆さんまとめて、ホームページでもいいし、あ
るいはそういう形でやっていくことも大事じゃないかと思います。準備するので今大変でし
ょうけれども、そういう部分が一つ一つこれから取り組んでいただければと思います。

それからもう一つ、私ども3年ほど前ですか、六戸小学校にいわゆる今のICTの教育の
部分で、授業を見たことがあります。生徒たちみんなiPadでもってやっています、六
戸学園もそういう形になると思うんです。そうするときと、あれはWi-Fiなりという部
分でみんなやっていると思うんですね、校舎いろいろ。そうしますと、そういう通信関係の、
IT関係の設備、こういった部分も5校にきっとあるかと思います。

こういうのを、じゃ、どういうふうにするかとかいう部分って、例えば役場のロビーにW

Wi-Fi がないですね。それから、いろんな形で例えば公共的な施設のところでそういうの
を使えるのかどうか、道の駅でも使えるのかどうか。いろんな形で非常にやはりせつかく準
備してきたものを有効に何かやる、そういうことを建物以外の備品も含めて、ひとつ検討委
員会でこれから検討していただきたいと思います。いかがでしょうか。

議長（下田敏美君）

町長。

町長（佐藤陽大君）

今、備品のお話出ました。町としては、やはり町有財産ということですので、皆様方から
頂いた税金で購入させていただいたものでもありますし、大きいものから本当に小さいもの
まで、いろんな多種多様な種類がありますので、そういったものは柔軟な姿勢で、町民の
方々に提供して、無償で持って行っていただくでも構いませんし、置いておいて使えなくな
ってしまえばただのごみになってしまいますから、そういう部分はきちんとしたルールを定
めて、いろんな形で町民の方々に提供するであったり、考えていければいいんじゃないかな
というふうに私は考えています。

でも、これからのことですので、検討委員会のほうでその部分も含めて、きちんと使える
ものは町でも使って、今おっしゃったようにWi-Fiの機能なんかはすごくいい考えだと
思いますんで、前向きに検討してまいりたいと思います。

以上です。

議長（下田敏美君）

杉山議員。

6 番（杉山茂夫君）

いずれにしても、この利活用の部分で、これをこう見ていますと、教室がキノコ工場にな
ったり、それから私ども議会で昨年秋に、県外視察研修しまして、そのときには議会改革と
ふるさと納税と、そしてこういう廃校舎の利活用、そこの利活用の部分で、それはサッカー
場を中心にしたスポーツの合宿施設だったり、そういう部分があります。

その中に、教室の一画に木工所をつくった。あるいは、だからそういう建物全体で使うの

は大変だけど、教室の一つだったら私たちの団体に使いたいよね、バンドで一つそこで練習したいよね、あるいはそこで一つの絵を描いたり、いろんな芸術活動に使いたいよね、演劇の練習に使いたいよね。例えばそういう部分の教室を一つ一つに分けた使い方もできるんじゃないかということ、最後にちょっと提案して、そして次の質問に移ります。

実は、今の現在の図書館は、学校からもいろんな図書館にあった本で、蔵書で今、いっぱいいっぱいだそうです。6月に、町の図書館が開館するまでに全部移動するわけです。その後、今までの児童図書館と、こちらのほうの一般の図書館のスペースが空くわけですね。先ほど言いましたWi-Fiも、あちらのほうは、Wi-Fiはある、それからあとエアコンもある、非常に快適なスペースなんです。その部分で、実はさっき言った子育て支援の拠点、あるいは町民サロンの部分での使い方、あるいは若者たちが集うサード・プレイス、こういう部分の使い方を提案できるんじゃないかということで一般質問しました。

さっき言った、町民サロンの部分では、私いつも町役場に入って、ロビーから入ったときに、結構スペースがあるんですね。あそこでも例えば、町民同士がお茶飲んだり、あるいは何かの打合せしたり、何かそういう部分って、これから例えばエアコンが入って、さっき言ったWi-Fiがあったり、そういう環境であればこちらの役場の入った正面にロビーがあって、ロビーを町民広場でもいいんですよ。あるいはさっき言った図書館の部分は、例えばどうでしょう、子供さんの児童図書については、何かそのまま図書館に持っていけないような話もちらっと聞いています。

そうしますと、児童図書とちょっとした遊びのスペース、いわゆるイオンの2階に行きますと廊下のところにちょっとした遊び場がありますでしょう。あるいは室内でちょっと遊べる、そういう遊具が。この間三沢市のマクドナルドに私何年かぶりに入りまして、孫と入ったら、入っていくと中に遊具があるんですよ。そしたら孫がすぐ入って行って、すぐ子供たち同士で、もうみんなで声かけ合って遊んでいる。そうしますと、こちら側ではお母さんとかお父さんたちが、コーヒーを飲みながら、子供たちの遊び場を見ながら、そしてママ友同士で話ししたり、そういう部分があります。あれを六戸町につくっちゃいましょうよ、子育て支援なんだから。子育て支援が、実はさっき言った未来計画も、人口ビジョンもこの中に大きく取り上げられている。

今の議会に提案された、介護高齢課というのを新設しますと。これは地域包括支援センターの部分もあるから、お年寄りの一つの拠点、居場所、老人福祉センターも含めて、この部分は、私は、六戸町はある程度は充実していると思うんです。今、おいらせ町と三沢市でも

八戸市でもどこでも、八戸市にははっちってある。市民が行くところ、子供たちと行ってそこで遊び場がある、三沢市もキッズセンターがある。おいらせ町は福祉課の部分で、子ども支援室というのをつくりました。

今は、福祉から逆に子ども支援の、子育て支援の、そういう課をつくったり、部署をつくったり、あるいはそういうセンターをつくったり、そういう形で今、積極的な子育て支援をまちづくりの基本にしているのがある。その部分を、ひとつ町長、考えてみていただきたい。今、子育て支援ははっきり言いますと、3つのこども園にお任せですよ、ある意味では。もっと主導的な形で、せっかく佐藤町長、子育て支援、あれでしたら一つそういう核施設をと思うんですが、いかがでしょうか。

議 長（下田敏美君）

町長。

町 長（佐藤陽大君）

ただいまのご質問にお答えいたします。

私の施策の中にもあります、次代の子供を育てる六戸ということであっておりますし、私就任してから1年過ぎました。現状把握しながら、そういった部分にもそろそろ取り組みを進めていかなければならないというように思っております。

図書館の利活用については、現在、介護高齢課ということで、高齢者の部分での課を分けたわけですが、やはり福祉課の部分では、生まれてからも亡くなるまで、全て福祉課で賄っている状態でありましたので、まずは今、高齢者の課を分けました。将来的には、子供の部分でもそういった課を、課になるか、それとも子ども室という形、未来センターとかという形になるかと思っておりますけれども、そういう部分も必要だと私は考えております。

その拠点としては、図書館という部分では大変役場とも近いですし、ゾーンの的にはすごく充実するのではないかなというように思います。その中身については、どの部分がいいのか、今お話がありました、カフェスペースがいいのか、それとも絵本を給した子育てゾーンがいいのかというのはいろいろ議論しなければならないと思いますけれども、先ほどありました廃校の学校も含めて、子供たちの居場所、町民たちが集う場所というものの設置というのが必要なことだと思いますので、総合的に町内の施設をこうして多く生まれるわけですから、そういった部分を活用して設置していくというのは私は検討してまいりたいというように思っ

ております。

議 長（下田敏美君）

杉山議員。

6 番（杉山茂夫君）

いずれにしても、次代を担う子供たちに、六戸町が今の六戸学園も含めて、そのまた学園に入る前の子供も含めて、ああ、子育て充実しているなというようなまちづくりをひとつよろしくお願いします。

また、昨年の秋に、私ども議員で北海道に県外視察行ったときの一例でいえば、私はもう一つ大事なふるさと納税だと思っているんですが、白糠町という180億円の寄附金を集めている白糠町という町が、集めた資金で何をやっているかという、子育て支援と定住促進、この予算を自分たち独自で組んでやっているんですね。つまり、このために使いたいからふるさと納税頑張ろうやと言って課をつくっていろいろやっている。

それぐらいこれからは、人口がどんどん減っていく中で、いわゆる子育て支援と定住促進、移住、こういったことも含めて、全国の各市町村が競争し合っているということを最後に申し上げて、私からの一般質問といたします。質問というよりも、提案も含めて、ひとつよろしく検討委員会のほうでお考えいただきたいと思います。

以上で終わります。

議 長（下田敏美君）

答弁は。

6 番（杉山茂夫君）

よろしいです。

議 長（下田敏美君）

これで、6番、杉山茂夫君の一般質問が終わりました。

次に、4番、種市正孝君から一般質問の通告がありましたが、本日欠席届が提出されたため、会議規則第60条第5項の規定に基づき、種市正孝君の一般質問は行いません。

次に、8番、高坂茂君は、一問一答方式による一般質問です。

高坂茂君の発言を許します。

8番、高坂茂君。

8 番（高坂 茂君）

おはようございます。

ただいまご指名をいただきました、高坂茂と申します。

令和7年第1回3月最初の定例会において、議長には質問に入る前に一言申し上げることをお許しいただきたいと思います。

今年は、日本の各地で大雪に見舞われ、どの地域も記録的な積雪を記録と、毎日、テレビ、ラジオ等で報道されております。特に、日本海側エリア、新潟県魚沼地区は3メートルを超える積雪で、どのような生活をしているのかな、大変な思いで暮らしていること、同情を感じざるを得ません。

さて、弥生3月は、学校であれば卒業の時期であり、新しい進路に向かうときであり、そして別れのときでもあります。それぞれに多くの思いが錯綜して、次のステップに向かって準備していることと思います。我が町の六戸学園も、今年4月に開校となります。この節目の年が、順調にスタートが切れることを皆さんと共に期待して見守りたいと思います。そして、佐藤町長においても、就任2年目に入り、大きな事業の門出に当たり、さすが六戸学園は素晴らしい学校だと言われるように、六戸丸のかじを取ってもらいたいと期待しております。

それでは、通告に従いまして質問に入らせていただきます。

初めに、人口減少対策についてです。

質問の1点目は、当町の10年後、20年後の人口予想について、どのように推移していくのかお伺いします。

2点目は、減少対策としての一環として、特定の地域を特区として設ける考えはないかを伺います。

3点目は、年々、地域の世帯が減少し、地域のコミュニティーが活力を失ってきております。これについての考えをお伺いします。

次に、六戸学園の未来予想図についてお伺いします。

1点目は、県内で初の義務教育学校として、特色ある学園を目指すための指針について、

考えをお伺いします。

2点目は、部活動のスムーズな地域移行について、町長の考えについてお伺いします。

以上、壇上からの質問を終わります。

議 長（下田敏美君）

町長。

町 長（佐藤陽大君）

ただいま高坂議員の質問についてお答えをいたします。

まず最初の、人口減少対策についてのご質問にお答えをいたします。

1つ目の、当町の10年後から20年後の人口予想を問うについてお答えをいたします。

令和3年3月に策定した、第2期まち・ひと・しごと創生六戸町人口ビジョン・六戸町総合戦略によれば、10年後の2035年の人口予想は9,238人、2045年には8,336人となり、令和7年1月末の住基人口の1万532人と比較いたしますと、10年後に約1,000人、20年後には約2,000人が減少する推測値となっております。

2つ目の、対策の一環として特区（税制優遇等）を設ける考えを問うにお答えをいたします。

特区制度は、地域や分野を限定し、国の規制を緩和するなどの特例措置を創設したり、既存の特例措置を活用できるようにすることで、実施困難な事業や施策の実現を図る制度ではありますが、今現在、町としては特区を設ける考えはございませんのでご理解をいただきたいと思います。

3つ目の、地域コミュニティの維持と対応を問うについて、お答えをいたします。

町内会に代表される地域コミュニティにおいて、近年その加入数の減少に歯止めが効かない状況にあることは当町のみならず、全国的な問題として認知されているところであります。当町におきましても、町内会への加入世帯と回覧板などにより多少なりとも町内会との関わりがある世帯を合わせた世帯数を、令和元年と令和7年の1月現在で比較してみますと、約4.97%減少している状況であります。

町内会などの役員の成り手（受け手）がなかなか見つからないといった問題だけでなく、加入数の減少により地域コミュニティの活動そのものが衰退してしまい、お祭りなどへの参加が難しくなっている地区もあるとは把握しておるところであります。このような問題に

対して、誰もが危機感を感じているものの、特効薬となるような解決策を見いだせないでいることもまた事実であります。

次第に増えていく、地域コミュニティの必要性を感じない方々との関わり合いをどうするのか、どうすれば地域コミュニティを維持、継続していけるのかなどについて、町としても各町内会の代表者を集めてのセミナーの開催や、モデル地区への活性化支援や、地域のリーダーとなる人材の育成など、活性化事業を実施しているところであります。

これらの取り組みは、その成果を短期間で実感できることはなかなか難しいのも事実であります。町民の皆様方との対話も含めながら、引き続き取り組んでまいりたいと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

次に、六戸学園の未来予想図についてのご質問にお答えいたします。

まずは、さきの提案理由で申し上げましたとおり、六戸町立義務教育学校六戸学園は、令和7年4月1日に開校をいたします。これまで、六戸学園の開校に向けて携わっていただいた開校準備委員をはじめ、全ての関係者の皆様へこの場をお借りして、心から感謝と御礼を申し上げます。

それでは、ご質問の1つ目であります、県内で初の義務教育学校として特色ある学園を目指すための指針を問うにお答えをいたします。

私は、かねてから当町の教育の役割は一言で言うと六戸の未来を創る人材の育成であると考えております。「共に創り、共に育もう」の下、教育の果たす役割は極めて大きく、その上からも、六戸学園を中心とした新しい教育環境を充実させることは私の責務であると考えております。学校はもちろん、保護者、地域の方々と手を取り合って、児童生徒が自らの夢や希望、志の実現に向けて挑戦する環境づくりを進め、県内初の義務教育学校として、その名にふさわしいトップランナーとなるよう、力を注ぎたいと考えております。

そのためにも、町の施策とともに、学校にはキャリア教育の一層の充実を働きかけ、その一環として将来に向けてしっかりと農工商観、いわゆる職業観を持った人材の育成に努めるよう、推進してまいりたいと考えております。

2つ目の、部活動のスムーズな地域移行の考え方を問うについて、お答えをいたします。

部活動の地域移行につきましては、私がスポーツ少年団の代表でありました令和4年度に、六戸町スポーツ等の活動における地域移行検討協議会の会長として、関係者の皆様と意見交換をした経緯がございます。

今年度は、高坂議員が会長を務められているということで、積極的かつ有意義な議論が展

開されていることと思います。ご存じのとおり、中学校における部活動の地域移行は、令和2年に文部科学省から示され、各自治体において移行に向けて本格的な取り組みが行われております。当初は、中学校の部活動改革に特化した形で始まった取り組みではありますが、私は、学校の部活動にとどまらず、町のスポーツ、文化活動の振興につながってほしいと考えております。

部活動の地域移行は、そのための方法の一つであり、最終的にはスポーツ、文化活動を通して全ての町民が元気で生き生きと暮らす六戸町でありたいと強く望んでおります。その手始めとして、スポーツ、文化活動に励んだ子供たちが、やがて立派に成長し、町のスポーツ、文化活動に関わり、それぞれの活動が活性化するシステムづくりが必要ではないかと考えております。

当面、指導者の確保が大きなポイントであり、重要と考えております。同時に、当町においては、指導者の育成も課題の一つと考えております。スポーツの競技種目や、各文化活動の実情は様々で、それぞれの活動環境は異なっており、比較的早期に地域移行が実現できそうなものとそうではないものがあると思いますが、将来的には多くの活動がスムーズな好循環となるようなシステムが構築できればと考えております。システムがスムーズに一定の軌道に乗るまで、町としても多面的、多角的にバックアップできればと考えております。そのためにも、皆様の豊富な経験や斬新な発想等、お知恵をお貸しいただければと思います。

以上で終わります。

議長 長（下田敏美君）

8 番、高坂茂君。

8 番（高坂 茂君）

それでは、この5点について、これにすぐ回答して何々やりますということはなかなか回答できないと思います。といったところで、私は一つ、考え方をお伺いしたいところで、あとは具体的なところはこれから検討していつてもらいたいということで、検討を提案していきたいというように考えております。

一つの人口減少、これは国も減少社会に入っておりますので、どこの自治体もこれに悩んでいることと思います。もちろん、国が一番悩んでいると思いますけれども。そういった中で、六戸町は、まだ今のところそんなに人口減少、そんなに直面しているわけでもないです。

唯一、増えていると言っていい自治体だと思います。

そういった中でも、10年後、20年後については、さっき言いましたとおり、回答ありましたとおり、1,000人ぐらい、20年後2,000人、もう減少する見込みであると、これはもう避けて通れないと思います。ただ、考え方、やり方によっては、人口は減らないかも分かりません。そういったところで、このやり方についていろいろ考えていただきたいということです。

さっきも言ったとおり、次代の人材を育成すると。それから、地域によっては、我が町の基幹は農業ですので、現状を見れば農業の後継者もいないと、もうそういう実態があるわけですね。ですから、この農業のやり方の形態自体も変えていかなきゃならない、そういったところをやっぱり検討して、積極的にそういうのを発信していくと、農業の後継者に。そういったところで、この地域が安心して暮らせるということを、ひとつ考えていただきたいということで1点目終わります。

次の、私、人口減少に対して、この対策として特区、特別区ですね、これを提案したいと。これは、私、議員なりたての頃、吉田前町長にこのことを提案したことがあったんです。質問したことが、もう10年ぐらい前ですかね、もっと前かな。

そのときに、なぜ質問したかという、やはり、我が例えば七百地区も、減少というんですか、学校の子供たちが減っているというのが見えませんでしたので、減らない方法はないのかなということで、そのときたまたま、おいらせ町の特区という話が新聞記事に出たんですね。これだ、と思ひまして、だったら我が六戸町もできないわけないでしょうということで質問しましたけれども、全くいい回答は得られませんでした。ということで、またあえて新しい佐藤町長になったところでもう一回質問していきたいなと思います。

実際は、おいらせ町は今もやっているんですね。ということは、学校の地域コミュニティーの中で、そこを特区としてやっている。ということで、具体的には、六戸町も定住促進の中で事業として、新築住宅には60万円とか、若者世帯には2万円とか、そういったところをやっています。そういった内容だと思うんですね。

ですから、そこは研究して、やっぱり特別区という、特区というんですから、税制の優遇制度、ですからあえて言いますけれども、10年間は固定資産税を無料にしますという、例えばうたい文句。それから子供1人については10万円を応援金として支給します。今も高校生の医療費も、高校の授業料無償化もあります。給食費無償化もあります。ですから、どんどん子育て支援に対しては、国のほうもバックアップしてサポートしております。

ですから、独自にまた六戸町もこういうことをやりますよ、やっています、やりますということで、要するに町外からの移住を促す。今、六戸学園が4月に開校します。そして、六戸学園がもっともっと魅力的であればまた人は来ると私は思うんですね。そういった効果を狙って、特区をやればいいのかと、そこをこれは一つの提案ですから、後で検討してください。

それから、地域コミュニティーですね。さっきも言いましたように、どんどん世帯が減っている。我が地区でも、もう10年前からすれば4分の1ぐらい減っているんですね。そして周りを見れば、要するに後継者がいない、独身でお嫁さんもない、子供がいない、これ現実なんですね。ですから、このコミュニティーどうやっていくのかなと、そしてそれにもう常会長とか、町内会長とか成り手がいない。それから班長、もう高齢化で動けない、それから町の民生委員など地区に必要ですので、そういったところも成り手がいない、もうそれが現実なんですね。

ですから、私は町の中でそれは解決していくしかないのかなと思っております。ですから、コミュニティーは必要なんでしょうけれども、常会の組織は。ただ、若い人は入らない、入れと言ったところで入らない。これも現実です。だったらどうしましょうか。やはり、その地域の常会にある程度支援してやると。

私は毎日散歩しています、1時間くらい。そして、県道とか町道の側溝がもう全部詰まっているんです、側溝が、雑草で。それに、空き缶とか全部散らかっております。これどうなるのかなと。もちろん道路も傷んでいる、それが10年前と何も変わっていないんです、これが現実なんです。ただ、お金がないわけですが、そんなにね。だったら、そういう側溝の整備とかそういうのを地域に、業者を使えばちょっともう金額が全く違いますよね。そういったところにやったら支援金出しますよみたいな制度を周知して行って、そういったのもやっぱり考えて、私それしかないのかなと思っております。

現に、うちの町内会にも、もうボランティアで除雪はするわ、のり面の雑草は刈るわ、私はよく褒めるんですが、よく頑張ってくれるね、ただでって。私、暇だから、やることないからやっているんです、そういった方もいるんですけれども、皆さんそうはいかないんですね。ですから、少しずつ町もLEDの電気料、町内会の街灯代の無償とか、援助したりとか変わってきております。ですから、そういったのをもうちょっと発展させて、町のほうで考えていただきたい。

ただ、この3つについてばあっと聞きましたけれども、町長、どうでしょうか。これから結論はすぐ出ないと思います。これに対しての、前向きな検討をするというところでも回

答をいただければなと思います。この3つについてです、お願いします。

議 長（下田敏美君）

町長。

町 長（佐藤陽大君）

再質問いただきましたけれども、人口減少の予想については、あくまでも予想ですので、これからの我々の取り組みによってその数というのは変化していくと思っておりますけれども、やはり国、県の人口減少の状況が非常に厳しい状況にあると。

特に、青森県につきましては、若者の流出が止まらないという状況で、知事のほうから何らかの策を講じて止まらない状況があるということで、またより一層、県としても地域と連携しながら取り組んでいきたいということは連絡はいただいておりますけれども、なかなか、六戸町が人口が増えているのは、どうしても住みやすい地域ですので、周りの市町村から来ていただいていると、その六戸町自体が増えているわけではなくて、流入の数が多いということで増えていることですので、周辺の市町村は減少しているという状況になります。

これは、分母を取り合っているような形になりますから、そうではなくて、その町自体が増えていくような形をまずは六戸町として考えていかなければならないと思いますし、今は現状を維持していますけれども、もう減少しつつありますので、そこはこれからの施策の在り方というのも考えていかなければならないなというふうに思っております。

その中でありました、特区についてでありますけれども、今、新築住宅の支援であったり、若者定住の支援をさせていただいておりますけれども、どんな形がいいのかというのは議論しなければならないと思います。なかなか、国、県に準じた特区の在り方というのは、町として単独で進めていくというのもなかなか厳しい状況であるのも事実だと思っております。前の町長のときにお話があったということですので、私も今回こうしてご質問いただきましたので、検討はさせていただきたいと思いますが、そのルールについてはしっかり勉強してから、考えなければならないなというように思っております。

あと、地域のコミュニティーの在り方ということでありました。町としても、町内会に入る方大変減少しております。特に、小松ヶ丘地区においては、非常に減少率が激しい、入らない方も多いということで、苦慮している状況にあります。地域で支え合う、その支え合

いが町を支えるということにもつながっていくというのは重々承知しておりますけれども、やはり新たに転居されてきた方、移ってきた方々にお話をしても、なかなか入っていただけないというのが現状ですので、その方法については見直す時期に来ていると思います。

地方においては、町内会の加入率がどんどん下がっていつているという状況も伺っておりますし、そのメリットとといいますか、デメリットばかり強調されている状況にありますので、入ることによってどんなメリットがあるのか、そういう部分も町として新たな方法を考えて、情報提供して、加入に努めていきたいというように思っております。

以上です。

議 長（下田敏美君）

8 番、高坂茂君。

8 番（高坂 茂君）

魅力あるランキングで、幸福度ランキング 1 位になりましたよね。そこら辺の、町長、どういった要因で 1 位になったのか、そこを一つお聞きしたいと思います。魅力ある町ですから。

議 長（下田敏美君）

町長。

町 長（佐藤陽大君）

ただいまのご質問にお答えいたします。

昨年 11 月でしたね、幸福度ランキング 1 位ということで、獲得をさせていただきました。以前から、3 位であつたりということで評価をいただいておりますけれども、六戸町の魅力という部分であれば、まず災害が少ない、温暖な気候である、そして 3 市、三沢市、十和田市、八戸市の 3 市に囲まれて、生活のしやすい地域であると。

そして、また新幹線であつたり空港であつたりということで、生活に必要なものが 30 分圏内で全てそろふという状況の中から、大変住みやすい土地ということが、言霊といいますか、様々な地域でお話ししていただくことによって注目をいただいているというように思っております。もちろん、それに満足することなく、これから子育てであつたり福祉であつたりと

ということで、町の弱い部分はあると分かっておりますので、そういった部分にもてこ入れをして、それをもちろん維持、それから伸ばしていくということも考えて進めていかなければならない、六戸町のセールスポイントは、そういった部分かなというように思っております。

以上です。

議長 長（下田敏美君）

8 番、高坂茂君。

8 番（高坂 茂君）

町長の今言ったとおり、全くそのとおりだと思います。とても魅力ある町だと再認識されているところです。この魅力ある町を、もっともっとPRしていくといったところがやっぱり必要じゃないのかなと、それについてのまた附帯して、施策も考えるといったところをお願いしたいと思います。

次の、特区ですね。例えばさっき、杉山議員が学校の利活用とか、廃校後の、その話がありました。その中で、私も特区ですから、やはり学校の近くがやはり一番魅力ある地域になると思うんですね。ですから、発展するのは多分、六戸学園、その周辺が今発展していくと私は思います。

ですから、その地域の例えば町有地があれば、そういったところを町で管理する、区画する、そしてそこを対外的に移住先としてそこを提案していくと。そしてそこは、無償でやります、どうぞおうちを建ててください、無償ですよ、無償で貸与します。そういった提案、方針ですね、そしてなおかつさっきも言いましたとおり、10年間は固定資産税を免除しますみたいなところでその特区を設ければ、多分移住してくる方が、それを見てあると思うんですね。ですから、手始めにその近くで、町有地でやれば私はいいと思います。

それで成功したら、ちょっと範囲を広げて、例えば開知小学校のグラウンド、グラウンドですよ。それからその隣にも空き地あります、もう8反分ぐらいあるのかな。今私たち、シニアクラブでグラウンドゴルフやっていますけれども、そういったところを区画してやればいいんです。ですから、それで使えないところはこれから検討していけばいいわけで。

ですから、そういったアイデアを持ってやるということ。そしてその財源がやっぱり必要ですね、今、学校にものすごい金がかかっています。ただ、さっき言った白糠町の百何十億円、そのふるさと納税を参考にして、やはり今は2,000万円ぐらいの納税ですから、せいぜ

い使っても四、五百万円、使えるのかどうか私は分かりません、まだそこら辺は。例えば、丸が1つつけば億になります。そうすれば、そういった造成に係る費用とか、それからPR費用とか出てくると思います。

ですから、ふるさと納税についてもやっぱり真剣に検討して、やはり例えば白糠町に職員を派遣し、1年間研修してくる、それを基に職員が頑張っていくといったところもアイデアとしてあると思います。ひとつ考えてみてください。

そして、その地域コミュニティについては、もう本当、誰もが大変だと思っております。ただただ人口が減らないことを考えて、世帯が減らないことを考えるだけなんですけれども、ただ、若者がいないということは、やっぱりもう自然減はもう避けて通れません。どうしようもない。

ですから、若者が定住して新しい命が授かるような、そういった行政をやったりやっていただきたい。であれば、やはり例えば何でもやる課の中に結婚促進課みたいなのを設けるとか、そして新しい子供が授かるような、そういう環境をつくるといったところも、私もしょっちゅう今までやってきたんですけれども、なかなか、昔だったら結婚相手を探してやったのが当たり前だったんですけれども、今はそれをやったらセクハラに当たるとかパワハラに当たると、もうできない、もうそれも現実なんです。

そういったところですので、コミュニティについては町のほうで援助して、そういった仕事をしたらこのぐらいの補助金をあげますみたいなところをやっていけば、私はある程度クリアできるんじゃないのかなと思いますので、それをひとつ検討していただき、次の質問に入ります。

六戸学園の未来予想図で、町長から回答がありましたように、次代を担う人材の育成と、もうこれがテーマだと、それが一つの多分理念は私も前の検討委員会の中で入ってやったと思うんですが、ちょっと忘れちゃったけれども、多分学校の理念ではそう変わらないと思います。本来であれば、教育長のほうに質問すべきなんです、何回も指摘していますので、あえて町長にこの質問をしています。ですから、町長の考え方でいいんです。

そういったところで、まず私からすれば、やはり義務教育学校、非常に県からも期待されるというか、注目されている学園だと思います。ですから、何を一番に売りにするかということ、私はまだイメージ湧きません。ただ、ほかの学校にない魅力というのは何かと思ったときに、やはり人材育成はもちろんなんですけれども、やはり県で一番になれるものがやっぱりあればいいと思うんです。何でもいいんです。例えば、部活は、部じゃなくてもうス

スポーツクラブになっていくんですけれども、六戸町の学校で、野球で県内1位になってしまった。やはり六戸学園の子供たちが部活の延長みたいに、その中でやっぱり1位になった。これも一つの六戸学園の9年制やった一つの証明になると思うんです。1年生から、スポ少でずっと同じ指導を受けていきますので。

それから、文化部でもいいんです、吹奏楽でも結構な活躍していますので。今まで人数が足りないのが、例えば一緒になりますので、そして、そういう学校の校舎でも借りて、そこで徹底して指導者というんですか、そういったところで県内1位になれば、やはりすごいな、やはり学園すごいなという評価を受けると思うんですね。ですから、そういったところを目標にして、ここ二、三年の間にばあっと結果を出すように、そうしていただければなど。

グラウンドがない、活動場所がないなんて言わないで、それから指導者がいない、そんなことのないように、もうしっかりと最初の年からやっていただければなど私は考えておりますので、積極的に教育長とコミュニケーション取ってやっていただきたい。教育長にもお願いしておきます。

次の質問ですけれども、この部活動の地域移行、これは私が一番今日は質問したいところだったんですね。

なかなか、私も今、会の会長をやっているんですけれども、やはり、ゴールが全然見えない。何回も私も委員会の中で言うんですけれども、やはり六戸町自体が小さいんです、母体が。例えば、八戸市とか青森市とか、そういう人口が多いところだったらそういう指導者、おおい指導者いませんかと、ばあっと手を挙げる人がいるんですけれども、実際に六戸町はいないんですね。その中で、もう学校のほうからは、もう部活じゃなくて地域に移行しましょうと。

これ、議長からもらった資料なんですけれども、もう2029年、あと四、五年でめどにというふうになっております、めど立ちませんね。でも、やらなければならないんです。そういったところで例えば、予算のほうがどうなるのか、これもまだ国のほうでもスポーツ庁のほうでもはっきりしたあれは出ていません。ですから、日本全国で移行するわけなんで、ものすごく金かかると思うんですね。であれば、やはり町の中でそれをやっぱり代行という言葉はよくないと思うんですけれども、もう積極的に町が主導して、地域移行に携わっていくしかないと思うんです。

もうバックはできないわけで、そういったところで、町長はどういうふうに考えているか分からないんですけれども、教育委員会のほうに全部任せるじゃなくて、もう町長もやはり

トップランナーとしてもう主導していくという考えが私は必要だと思うんですね。そういったところで、今考えていることだけでいいんです、一つだけでいいんです。どういうふうに考えているのか、もう一回お願いします。

議 長（下田敏美君）

町長。

町 長（佐藤陽大君）

スポーツの地域移行についてということのお話でした。スポーツだけではないですね、文化活動もそうですけれども。実際、地域移行というのは、非常に、先ほど高坂議員がおっしゃられたように、指導者がいなかったりということで、難しい部分もあるかとは思いますが、いずれもうそういった形で全国的に地域移行というのは進めていかなければならない状況だと思っています。

せっかく、こうして六戸学園が開校いたしますし、県内の中でむつ市のほうでは地域移行大分進んでおりますけれども、町村部ではまだまだ全然進んでいない状況ですので、この六戸学園を発信して、地域移行を進めていきたいという気持ちは、非常に私、それこそ検討委員会の会長でもありましたので、考えは持っております。

やはり、今まで六戸町になかった、やっていなかったスポーツ等があります。バスケットであったり、ゴルフであったり、そういった部分の指導者をどうするのかとか、指導者といってもボランティアだけでいいのか、ライセンスを持った方々がちゃんとやらなければならないんじゃないかとか、そういうまずルールづくりもしていかなければならない。

そして、小学校は今、小学校の部分はスポーツ少年団、そして中学校は部活動ということで、そのルールも方法も違う状況にあります。そのすり合わせを六戸学園が一つになった状況で、指導者等も含めて1学年、部活動となると3学年ぐらいからになると思いますけれども、9学年までまとめてそういう指導者の方々と協議するというのも、同じテーブルにのことがまず第一歩じゃないかなというように考えております。

いずれにしても、地域移行に関しては、町民の方々も大変期待をしているところですので、文武両道の観点からも、そういった地域移行というのは積極的に進めていく、教育委員会だけでなく、私もそういった部分に口を挟みながら、ぜひ積極的に進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

議長 長（下田敏美君）

8 番、高坂茂君。

8 番（高坂 茂君）

今スタートしたばかりで、すぐ未来がちょっと描けないというのもあります。私は、一つはやはり学校からも地域に移らざるを得ないという、これはもうしょうがないことで、やるしかないんです。指導者がいないからというのであれば、もう全く失敗に終わるわけなんです、国の施策にしても。ですから、地域全体が大きい市であろうが、小さい町村であろうが、やはり子供たちのためにこの制度がしっかりしたものでなければならない、私はそう考えます。

であれば、やはり町が、行政が主導して、その指導者を育成する。ですから教育委員会でもいいです、企画財政課でもいいんです。どこでもいいんです、そういう課があって、その中でどうすればいいのか検討していく。やはり、スポーツ庁のほうでこういう方針がある、じゃ、お金はどうなる、地域にないところはどうするのか、そういったところは検討するしかないと思うんですね。

ですから、一つは、私は提案するんですけれども、町の組織の中でこの地域移行に対しての指導者を育成する。そういう部署というんですか、そういったところをつくる、その中で検討していくしかないんです。できれば、私は、どこかに載っていたと思うんですけれども、ちょっと最近物忘れが激しくてあれなんですけれども、まず取りあえずはその地域の特別に好きな種目、例えば六戸町であれば野球なんですね、私はサッカーなんですけれども。ただ全国的に見ればサッカーがナンバーワンなんですね。

ですから、取りあえず野球、サッカーに特化して指導者を育成する、そこからでよろしいと思うんですね。例えば、文化部であれば、吹奏楽はやっぱ音楽の先生じゃないと教えられないんですね。それから、ある程度指導できる、やはり先生が一番いいんじゃないのかと思うんですけれども。

そういったところの環境も必要なんでしょう。学校にそういう先生がいれば一番いいんです。ただ、音楽の先生であれば、異動すればいなくなるわけなんですから、そういったところもやはり地域に、周りを見れば、近くにやっぱ音楽を指導できる先生、いると思うんで

すね。そういったところも情報の中から取り入れていく。

そういったところで、町長ひとつ、未来はやはり今年は金渕光希君がプロとしてスタートしましたので、それをバックアップ体制をしながら第二のプロ野球選手、プロのサッカー選手を育成、排出できるように、そうすればやはり子供たちがやっぱり六戸町はいいなと、そういう魅力ある町だなと、ますます好きになると思うんです。そういったところで、町長、もう一度言いますけれども、そういった考え、指導者を育成する、そういう組織をつくる考えがあるか、もう一回質問して終わりたいと思います。

議 長（下田敏美君）

町長。

町 長（佐藤陽大君）

今、指導者についてのご質問がありました。

学校の、学園の指導者という意味では、今まではスポーツ少年団であれば父兄の方々が監督をしたり、コーチをしたりということよくあったお話ですけれども、現代のそういう地域移行に関しては、しっかり指導者はライセンスを持った形で指導しなければならないという要綱も出てきておりますので、それは町としては人選もそうですけれども、教育という意味でも指導者の育成にはもちろんお金もかけてそういう支援はしていかなければならないと思っています。

どうしてもメジャースポーツばかり取り上げられますけれども、オリンピック競技にはダンスもありますし、スケボーもありますし、そういった多様化を取り入れた学園の取り組みというのも私は必要かと思っていますので、指導者を確保して、やりたい子供がいるのであれば、なるべく少数でもその取り組み、スポーツをできるようにしてあげたい、かなえてあげたいという気持ちはありますので、そこは前向きに、高坂議員のおっしゃるように進めていければなというように考えております。

以上です。

議 長（下田敏美君）

8 番、高坂茂君。

8 番（高坂 茂君）

今、町長が前向きの言われましたので、ぜひとも先頭に立って走っていただきたい。

質問を終わります、ありがとうございました。

議 長（下田敏美君）

これで、8番、高坂茂君の一般質問が終わりました。

次に、11番、山本実君は、一問一答方式による一般質問です。

山本実君の発言を許します。

11番、山本実君。

11 番（山本 実君）

11番、山本実でございます。

通告に基づきまして大卒1点についてご質問いたします。

質問事項は、オンデマンド交通についてであります。

質問内容につきましては、4月に開校する六戸町立義務教育学校六戸学園のスクールバスに使用するため、現在の町民バスの運行が減便されます。地域の交通格差を減少し、誰もが快適かつ効率的に移動できる環境を町が提供するため、オンデマンド交通サービスを実施をする考えはあるかということでございます。

4月1日に六戸町立義務教育学校六戸学園が開校いたします。私は、その開校を楽しみにしている町民の一人でもあります。町内の町立小中学校5校が統合をし、六戸町立義務教育学校六戸学園として、新しい教育方針の下、スタートをすることに大きな期待を寄せている一人であります。一部、施設の完成が若干伸びるものの、学校運営には全く支障がないようであります。改めまして、工事関係者並びに担当する課の努力には敬意を表する次第であります。

さて、六戸学園に通学をする子供たちの登下校を確保するため、町が保有するバスをスクールバスとして活用するために、町民バスの運行が減便されると聞いております。800名を超える子供たちが一斉に移動するわけですから、保有する町のバスの台数を見ればやむを得ないことであろうかと思いますが、心配をするのは安全な登下校であります。特に、事故が多発をしている旧柳沢駅交差点であります。この道路は、町が管理をする町道であり、また、スクールバスのルートにもなっているようであります。あの交差点で二度と事故が起

こらないよう、一日も早く改良並びに改善をしなければならない交差点であります。

もう一つ心配をするのは、町民バスが減便されることにより、今まで利用している方々にご不便をかけないのか、心配をするものであります。特に病院通いをされている方々、または食料品など買い出しに利用されている方々に不便をかけないのか心配をするものであります。担当課は、町民バスの運行ルートなどを変えるなどして対策をするようではありますが、果たして、利用者のニーズに応えることができるのか心配をするものであります。

さらに気になるのは、あの大型バスに乗客が一人も乗っておらず、空気を運んで走っている現状であります。果たして、経費に見合った効果が上がっているのか、非常に気になるところであります。私は、そのようなバスをよく見受けるわけではありますが、今、六戸学園の開校を機に、町民バスの運行を大きく見直す時期が来ているのではないのか、そのように思っているところでございます。

そこでご提案を申し上げますが、オンデマンド交通サービスの実施をするべきではないのかと思います。このサービスの内容につきましては、説明をするまでもなく、ご存じであろうかと思いますが、先日、オンデマンド交通サービスを実施をしている、おいらせ町の成田町長と、立ち話ではありますがこの交通サービスのお話をいたしましたら、成田町長、開口一番、これはいい事業だよ、町民の方々にも大変喜ばれていると、このように申されておりました。

六戸町でも、地域の交通格差を減少し、玄関から目的地までを合言葉に、町民の誰もが快適かつ効率的に移動できる環境を、町が整備提供するために、オンデマンド交通サービスを実施するべきだと考えますが、これについて、実施をする考えはあるかお尋ねをするものであります。

以上、壇上から質問といたします。

議 長（下田敏美君）

町長。

町 長（佐藤陽大君）

それでは、山本議員の質問であります、オンデマンド交通についてお答えをいたしたいと思えます。

まず最初に、柳沢交差点のお話がございました。信号機の設置についてということでも、

先般、議論があったところでありますけれども、もちろん、交差点の改良工事は新年度予算に盛り込んで、委託をして工事を進めていくという状況にさせていただきました。そして、令和8年度以内の工事完成を目指すということで、お話をさせていただきましたけれども、その信号機の設置についてですけれども、町としてはもちろん、信号機の設置は諦めるつもりは一切ありません。

あくまでも、信号機を設置するためには、改良工事をまずしなければならないというのが条件でありましたので、皆様方からも信号機設置要望については要望書を提出いただいておりますし、そこは十分考慮した上で、引き続き交差点改良と信号機設置については諦めず進めていきたいというように思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

それでは、今ご質問がありました、オンデマンド交通について答弁をさせていただきます。

令和7年4月に開校をいたします、六戸学園のスクールバスに使用するため、町民バスの便数が減少されています。地域の交通格差を減少し、誰もが快適かつ効率的に移動できる環境を提供するオンデマンド交通サービスを実施する考えはあるかということですが、デマンド型交通はコミュニティバスなどの路線定期型交通では、財政負担が増大し、維持していくことが困難な状況下で、予約する利用者に応じて運行する時刻や路線が変わる新たな輸送サービスとして注目されておるのは理解しておるところであります。路線バスのように、決まった停留所に止まるものや、指定エリア内をタクシーのように自由に使うことができるような形など、様々なタイプがあると理解をしているところであります。

当町の町民バスにおいては、利用者数の減少や維持費の増大など、見直しの時期に来ていると認識はしております。デマンド型交通も含め、当町における地域公共交通の在り方についてはどのような交通手段が適当なのか、ニーズの把握に努め、検討してまいりたいと考えておるところでありますのでご理解をいただければと思います。

以上です。

議 長（下田敏美君）

11番、山本実君。

11 番（山本 実君）

今議長のほうから、始まる前に答弁も質問も簡潔明瞭にというふうなお話をいただいておりますので、簡単に分かりやすくというふうなことだろうと思いますけれども、答弁によっ

では、この後お尋ねしなくてもいいかと思うんですが、私は、このオンデマンド交通の内容につきましては、お互いに分かっているわけでありまして、また隣のおいらせ町も大変すばらしく実施をされているわけでありまして。

私は、長く議員をやらせていただいておりますが、執行者の答弁で一番困るのが、この検討するというふうな答弁をいただきますと一番迷う、困るところなんですよ。どう検討するのか。私は隣のおいらせ町でもやっているし、今、各自治体がそういうふうな方向で進んでいるということは町長もご存じだろうと思うんです。

この検討するというようなものをどのように承ればいいのか、いわゆる実施をする方向で考えるから、詳細等についてはこれから担当のほうに指示をするから、多少時間がかかるよというふうな形で承っていいものか、この辺のところを明瞭に簡潔に答弁ください。

議 長（下田敏美君）

町長。

町 長（佐藤陽大君）

今の質問にお答えいたします。

検討するという話の意味合いということですが、町民バスにおいては、バスの老朽化等、維持費、経費が大変これからかかっていく状況にあります。

質問の中にもありましたように、空気を運んでいるんじゃないかという話も届いているのも事実でありますし、これからバスを買い換える余裕がこの町にあるのかということになれば、財政的にも大変厳しい状況ですので、そのデマンド交通がどれぐらい予算がかかって、まだ全然検討している段階にありませんので、これから検討するという言葉は、その予算も含めて、一番この町に適した交通手段が何が最適なのかを検討する材料の一つに、そのデマンド型交通は十分私はなり得るというように思っておりますので、一案としてこうやってご質問いただきましたので、それを含めて検討するという回答になろうかと思います。

議 長（下田敏美君）

11番、山本実君。

1 1 番（山本 実君）

分かりました。そこまでお話をしてくださるのであれば、実施をするというふうな形で承りたいと思います。詳細等につきましては、今こうして私がここで提案しましても、確かにおいらせ町、他の自治体で取り組んでいる事業でありますけれども、実は、一番最初に、この質問をする前に、いろいろ私も調べました。

まず、岩手県久慈市、ここも実施をいたしておりますし、直接お電話して行って、資料を頂戴をして、それから三沢市、ここにも足を運んでいって、担当の方とお話をしながら、いろいろまた指導を受けながら、問題点を聞きながら、そして最後においらせ町に行って、担当の方といろいろお話をしてまいりました。

成田町長との立ち話のお話も壇上でいたしましたけれども、成田町長が、繰り返しますけれども、これはいい事業だよと、そういうふうに私がお尋ねをするのを最後までしゃべる間もなく、これはいい事業だよと、町民の方々にも大変喜ばれているよというふうに申されておりましたし、ただ、町長がおっしゃるみたいにして経費の部分、予算の部分、ここが少し、これから六戸学園の償還等も始まれば、難しい部分が出てくるのかなという感じはしますけれども、しかし、町民の足を確保しなければならないという現実があるわけでありますから、ひとつ前向きに検討する、その検討は実施をするというような形で考えていただきたい、このことを答弁あれば承っておきます。

議 長（下田敏美君）

町長。

町 長（佐藤陽大君）

オンデマンド交通の話でしたけれども、実際、今町民バスを利用している方がどの形が一番いいのかというのは、やはり要望等、アンケートを取るなり、町民の方々からご意見を聞くのがまずは最優先だと思います。使う方々がより便利で、利用しやすい交通体系というのが一番最優先だと思いますので、その予算の部分もありますけれども、そこは調査をした上で、その形、何がいいのか、青森県全体でも知事のほうからも、ライドシェアであったり、様々交通体系の問題というのは提起されておりますので、おいらせ町の話もありましたけれども、他地域の行っている施策も含めて検討してまいりたいというように思います。

以上です。

議 長（下田敏美君）

11番、山本実君。

1 1 番（山本 実君）

ひとつよろしく願いをいたします。

以上、終わります。

議 長（下田敏美君）

これで、11番、山本実君の一般質問が終わりました。

以上で、本日の議事日程は全て終了いたしました。

次の本会議は3月6日午前10時より本議場において再開いたしますので、本席より告知いたします。

本日はこれにて散会いたします。

起立願います。

お疲れさまでした。

散会（午前11時49分）